

縦の絆

会長 星野隆之

年の瀬が迫り、デフレ宣言がついに出てしまいましたが、会員の皆様におかれましては、各界で益々ご多忙の日々をお過ごしのこととご推察申し上げます。

平成20年の事業も滞りなく終了しました。皆様のご協力に深く感謝いたします。「卒業生送別試合」、「通常総会」、「浦和四校交流戦」と例年になく皆様の参加が多く、今後の活動に向けて大変心強く思っている次第です。

現役部員の数が一学年平均30名以上となっている昨今、“横の糸”はしっかり繋がっているようですが、先輩後輩の“縦の絆”は繋がりにくくなっているようです。「FCれいわ」での活動や、「新年初蹴り会」、「総会」、「四校交流会(若手の交流会も含む)」は“縦の絆”を結ぶ貴重な機会になります。就職活動に力を貸したり借りたりも、昨今の経済状況を考えれば大切な会の役割ではないでしょうか。各事業に多数参加いただき、太い、力強い“縦の絆”を作り上げ、先輩方は後輩達(もちろん現役にも)に積極的に力を貸してあげてくださるようお願いいたします。

来年早々の「新年初蹴り会」、3月の「若手四校交流戦」に多数のご参加を期待します。残念ながら全国大会予選、ベスト32で敗れ去った現役に活を入れる意味でも！！

「予算達成まであと120000円」このままだと「現役支援費」を減額しなければならないという、OBとして最も恥ずかしい事態になりかねません。ご協力をお願いします。

新年初蹴り会 ご案内

- 日時 平成22年 1月10日(日)
12:00 集合
12:30~14:00 現役 VS FCれいわ・若手OB
14:00~16:00 新年会(麗和会館)
- 雨天時 現役VS FCれいわ 後 直ちに新年会
- 会費 社会人 2000円
- 連絡先 宗久信男(高26回卒 幹事長)090-8170-5922

「浦和四校サッカー一部OB交流戦 若手編」35歳以下大集合！

- 日時 平成22年3月7日(日)
- 会場 浦高グラウンド
- 集合 8:00
- 試合方式 各校 2チーム A Over 24
B Under 23
30分ゲームのリーグ戦

※ 年齢区分は当日の4校の状況により変更有

- 試合開始 9:00~ 12試合連続

- ※ 軽食を用意します。(足りないと思う人は持参せよ！)
- ※ ユニフォームは用意します。



住所変更・会員消息・連絡等は
下記アドレスへお願いします。
連絡先アドレス 星野隆之
takayuki40402002@yahoo.co.jp

「Bチーム(35歳～49歳)連覇」

副会長 持田正義(高16回)

第9回「浦和四校サッカー一部OB交流戦」が、10月12日浦高グラウンドで開催された。宗久幹事長(高29回)が用意した参加者記入表は2枚60人分、周囲からは1枚埋まれば上出来との声もあったが、記入者が45人、応援の家族、懇親会のみ出席者を含めると60人に近い方の参加を得た。前日飲みすぎてか開会式に現れないメンバーに対して、携帯で呼び出す場面もあるのはOB戦ならではの光景。

試合結果はAチーム(50歳以上)浦高0-0 西高(抽選負け)、浦高 0-0 南高 で両校3位となった。Bチームは 浦高 2-0 西高、浦高 1-0 市高 で優勝、前回に続き連覇を果たした。Bチームは2試合とも全く危なげない試合運びで完勝、幹事校の面目を保った。

長島先生(高21回)が顧問を務める浦和一女サッカー部とのエキジビジョンマッチでは、60歳以上と限定したにもかかわらず、各校からエントリーが殺到して2チーム作ることに。往年の名選手が楽しそうにグラウンドを走り回っていた。

《「日本サッカーの御三家」と言われた埼玉高校サッカーの復権を目的に9回目の開催。「当時は四校同士のライバル心が全国制覇の力となった。(市高池田監督・市高OBの話)」》(以上14日付埼玉新聞から)と、かなり注目されている会になっていることが分かる。

来年は節目の第10回を迎えるので、OB各位の一層の参加を期待します。

なお、当日、会場の準備・後片付けに御苦労いただいた先生、現役部員の皆さんにお礼申し上げます。

初めて浦和四校OB戦に参加して

大道敏浩(高31回卒)

3年前から誘われていましたが、スケジュールが合わず、今回初めてOB戦に参加させていただきました。サッカーボールを蹴るのは27年ぶりであり、「ボールが蹴れるのかな、走れるのかな」とあれこれ不安がよぎりました。チームメートに迷惑をかけないように3ヶ月前からジョギング・50メートルダッシュと体力作りをしてきましたが、当日は5分ともたずバテてしまい、体力のなさを痛感したしだいです。しかし、60歳を超えた諸先輩がたの元気ハツラツとしたプレーを目のあたりにして勇気付けられました。試合も予定通り進行され、大きな怪我をした人もいなく、懇親会も大盛況であったことからして幹事さんたちには「お疲れ様でした」と言いたい気持ちでした。最後に同期が多数参加でき、懇親会後の飲み会で現役時代の話をかかんに盛り上がり時間をたつのも忘れてしまいました。来年もできれば参加したいと思います。また、みなさんと会える日が今から楽しみです。

以上

「サッカー界で活躍するOB」 第2回

「サッカー界で活躍するOB」第2回は、東京外語大卒業後ドイツに単身で乗り込み、名門1.FCケルンでGKコーチとして現在活躍中の 田口哲夫氏(高47回卒)です。

田口哲夫(高47回卒)

私が1.FCケルンの育成部門のGKコーチとなって5シーズン目を迎えた。元プロGKでもあった前任者が本業の都合で続けることが困難になり、当時のU17(現U19)監督の推薦で私が後任となった。その頃私は市内のサッカースクールで主に少年GKの指導に携わっていたのだが、それが縁で推薦されたようだ。当時は週に2回U14からU17のGKを指導するのが私の仕事であったが、3シーズン目からはトップチームのGKコーチの都合により日本のサテライトに相当するU23とU19も面倒見ることになった。そして4シーズン目から正規採用となり、晴れてGKの指導を生業とすることとなった。ちょうど育成部門の組織拡大を図っていた時期でもあり幸運も重なった。選手としての実績は皆無、指導者としての経歴やライセンスなどもドイツ人に勝るものが無いにも関わらず、こんな東洋人を雇うとは少々無謀であると我ながら思ったものだ。しかもケルンといえばシューマッハー、イルクナーという往年の代表GKを輩出したクラブだ。ちなみに彼らを育てたGKコーチは69歳ながら現役バリバリ、私の採用にも最終的には彼が首を縦に振ってくれたようだ。私への評価を有利にしているのが、隔年でユース年代のドイツ代表GKが輩出されていることだろう。最初の二人はイングランド移籍してしまっただが、U17代表の正GKは現在の教え子であり、その二つ下のGKもU15代表だ。彼らの能力が全てで私が特別なことをしている訳ではないのだが、私の指導の方向性は間違っただけでなさそうだ。

ドイツといえば国際的に見てもGKの宝庫と言えるだろう。だが驚くことにGKコーチのライセンスなどは存在しない。各チームのGKコーチは自らの経験と哲学に基づいて指導をしているというのが現状だ。前述の大御所曰く一番大事なのは「バイオメカニズムの基本原則」だそう。仰々しく聞こえるがちょっと考えれば文系であった私にも理解できることである。私なりに指導者として一番大事だと思うのは、目で見て耳で聞いて例え小さなことでも何かに気づくことだ。その「気づき」がなければ当然ながら修正も変更も加えられないのだから。ただ現実的には、現在U8からU19に所属する約200人の選手でサッカー選手として生計を立てられるのは一握りである。そう考えると、せめてどこに出しても恥ずかしくない人間教育だけはしておきたいものだ。私は自らの仕事を「モノづくり」ならぬ「ヒトづくり」だと自負している。残念ながらドイツには自分のことは棚に上げてしまう指導者が多いのだが、洋の東西を問わず指導者云々以前に青少年に模範的態度を示すのは大人としての最低の義務であると私は信じている。浦高サッカー部同期諸君の異論は重々承知の上で主張するが、浦高時代にその多くを学んだことは紛れも無い事実である。

今日、ドイツ全土を見渡してみても正規採用の育成担当GKコーチは多くない。希少だという見方もできるが、それほど重要でもないとも言える。決して安定しているとは言えないこの仕事だが、解雇されない限りここケルンで経験を積むつもりだ。もちろん、いつかは日本に帰ってその経験を還元できればとは思っている。もちろんその時は地元さいたままでと心に決めている。もちろん、必要としてくれるクラブもしくは団体がなければ話にはならないのだが...



高校選手権二次予選を終えて

浦和高校サッカー一部監督
松村道彦(高27回)

去る10月10日、3年生にとっては最後の大会となる高校サッカー選手権二次予選が開催されました。今年度のチームは、ここまで新人戦南部支部優勝、同県大会ベスト8、関東大会県予選ベスト8、総体県予選ベスト4、とここ数年では最も良い成績を収めてきました。最後の大会に臨むにあたって、夏は走り込みを行い、練習試合も多くこなしてきました。課題となったのは、どんな相手と対戦しても失点していたことです。特にコーナーキック等のリスタートでの失点が目立ちました。3年生の守護神である正GKの初戦出場停止が不安材料でもありました。9月中旬にインフルエンザによる4日間の学校閉鎖もありましたが、幸いにも試合日にはメンバーに怪我人、病人もなくGK以外はフルメンバーで臨むことができました。しかし、結果は桶川高校相手に1:2と惜敗でした。前半先制点をあげたものの、その直後に失点するという甘さがでて前半が終了しました。後半押し込んだものの1点が遠く、逆に素早い攻撃からミドルシュートを決められました。相手選手はあちらこちらで足の痙攣を起こすような状況でしたが、こちらのストロングポイントである中盤の作りと仕掛けにいつもの流れが無く、アイデアに欠けた攻撃を繰り返すばかりでした。自分たちの良さをだすことができなかつた点、悪いできながらも結果を残すような逞しさに欠けていたことも事実です。

今年は多くのOB諸氏から期待の言葉をかけていただくことも多く、ご支援ご協力に感謝すると共に、その期待に応えられなかったことをこの紙面をお借りしてお詫びいたします。

新チームは2年生29名、1年生33名、計62名で年明けに開催される新人戦南部支部予選トーナメントに向けて活動しております。うまさは3年生チームには劣りますが、労を惜しまない運動量、集中力、気持ちの入り方に可能性を感じております。時間がかかるとは思いますが、諸先輩におかれましては厳しくも長い目で見守り、ご指導いただければ幸いです。

新主将となって

浦和高サッカー一部2年
主将 石本雄太

浦和高校サッカー部新主将となりました石本雄太です。

今年度の選手権は、二次予選県ベスト32で破れ3年生が引退したため、10月下旬より新チームとして活動しています。現在はボールコントロールを中心とした練習で個々の技術向上を図り練習に取り組んでいます。

さて、新チームとなり最初の大会である新人戦が1月から始まります。大会まで1ヶ月ほどあるので、練習試合などを通して自分たちのサッカーを少しでも身につけていきたいと思っております。この大会では南部予選突破を目標にし、一つ一つの試合を通してチームのつながり、サッカーの質を向上させていきたいです。そして、関東大会予選、インターハイ予選につなげたいと思っております。

私たちは技術の面ではまだまだですが、気持ちや走力の面では上位のチームと戦えると思っております。しかし、現時点では、大会で上位に入ることは難しいです。これからの練習で一人一人がサッカーに対する意識を高く持ち、集中して練習していくことでチームのレベルが上がり、トップレベルで戦えるようになって考えています。そのために、私はキャプテンとしてチームをまとめることはもちろんのこと、皆が本気で練習に取り組めるような環境を作って行きたいと思っております。時にはメンバー同士が衝突することもあると思っておりますが、そういう時にこそ意見を交換し合い、サッカーの向上につなげていかなければなりません。

今の2年生は上の学年の試合に出ていたメンバーが少ないので、部員全員が同じスタートラインに立っています。互いに切磋琢磨しながら、サッカーができることに感謝の気持ちを忘れずに、応援して下さる方々の期待に応えられるよう努力したいと思っております。よろしくお願いたします。